

NEW GENERATION CLIMBERS

#004

大場美和

MIWA OBA

森山憲一=文・写真

「一生クライミングを続けている人に憧れます」



PERSONAL DATA

出身地 愛知県岡崎市
生年月日 1998年3月7日
クライミング歴 9年

主な戦績

2016年 ボルダリングジャパンカップ10位
2015年 アジアユース選手権マレーシア大会優勝
2013年 世界ユース選手権リード3位

最高グレード

ボルダリングニ/三段、リード5.13d

ホームジム

プロジェクト
project-climbing.com

「校

舎の壁をよじ登る女子高生」という動画を見たことはないだろうか？ 遅刻しそうになった女子高生が、スパイダーマンのように校舎の壁を駆け登り、窓から教室にダイレクトアクセス。ぎりぎり遅刻をまぬがれるというものだ。企業のCMとして撮影されたものなのだが、そのパフォーマンスがすごいとネット上で話題になった。

この女子高生は大場美和さんというクライマー。海外のユース選手権で活躍し、ワールドカップにも出場する実力者である。校舎の壁をよじ登るのは、彼女にとってはそれほど難しいことではなかったのだ。

美和さんは現在19歳。2016年春から大学生となっている。居場所を探したところ、横浜のクライミングジム「プロジェクト」でアルバイトをしていることがわかった。プロジェクトというのは、世界的に有名なボルダラー

小山田 大さんがプロデュースするジム。高難度課題を追求し続ける小山田さんと、CM動画で見たおとなしそうな美和さんのイメージとはどうもリンクしない。ああ見えて美和さんも、素顔はストイックな女性なのだろうか……。 「よろしくお願いします」

取材現場に現れた美和さんは、動画で見たままのふわりとしたイメージの人だった。語り口はおだやかで、こちらの質問をしっかり聞いて、ひとことひとこと丁寧に答えてくれる。屈強どころか控えめな印象すらある、笑顔が明るい女性だった。

美和さんがクライミングを始めたのは9歳のとき。父親が読んでいた雑誌にクライミング・ワールドカップの記事が載っていて、それを見て「私もやりたい!」と直感したのだという。とはいえ、家族にクライミングをやっていた人がいたわけではなく、その記事を見るまでクライミングの知識はゼロ。



左) ふだんは常にやさしい表情をしているが美和さんが、ホールドを見つめる目は鋭くなる。左下) 最近のお気に入りシューズは、イボルブ・アグロ。小山田さんプロデュースモデルだ。中下) ドイツでFiese Luiseというルートを完登。グレードは5.13d。自身最高グレードとなった。右) 出演した映画『笠置ROCK!』は、もうすぐ海外の映画祭に出品される。国内で見られるのは秋以降の予定

本当に直感でビビッときてしまったらしい。

父親にねだって名古屋のクライミングジムに連れていってもらい、実際に登ってみるとさらに気に入った。体操をやっていた美和さんは身のこなしの基礎ができていたのか、最初から登れたようで、これは自分に向いているかもしれないという感触を得たという。

11歳のときに初めてコンペに出場。以降、ユースの大会で表彰台、ジュニアオリンピックで優勝など、着実に結果を残していく。娘の熱意に負けてか、父親は自宅にクライミングウォールまで作ってくれた。地元岡崎市にもクライミングジムができ、環境にも恵まれて美和さんの実力はどんどん伸びていった。

2015年、17歳のときには国内代表に選ばれてワールドカップにも出場。翌2016年もワールドカップで世界各地を転戦してまわった。

こうしてユース世代のトップクライマーのひとりとなった美和さんが、少し異質な点がある。同世代の多くのクライマーと違って、岩場のクライミングにも興味を向けているところだ。実家のある愛知県岡崎市は、国内有数規模を誇る鳳来という岩場に近く、高校生時代から、ジムでのトレーニングのかたわら鳳来でも登っていた。

そして決定的なのは小山田さんとの出会いだろう。コンペには出場せず、岩場のパフォーマンスだけで世界にその名を知られるようになった小山田さんは、まさに岩場の申し子。小学生のころ、地元のジムに講習に来た小山田さんと初めて会ったときに通じるものを感じたという美和さん。以来、小山田さんを慕って、ついにはそのジムで働くようにまでなった。

「横浜の大学を選んだのは、プロジェクトに近いからです(笑)」

2016年秋には、小山田さんに連れ

られて、2カ月にもおよぶドイツクライミングツアーに出かけた。ここでは自身最高グレードを更新しただけでなく、クライミングに対する視野を大きく広げることもできた。

「ドイツの岩場では、初心者からトップクライマーまで、いろんな人がクライミングを楽しんでいました。年をとってもクライミングに情熱を傾けている人たちがいて、そういう姿が本当に格好いいなと思ったんです」

大きな刺激を受けた美和さんは、帰国後、京都の笠置という岩場を舞台にした映画の撮影に参加した。『笠置ROCK!』というこの映画、美和さんは、岩場と地元地域とのかかわりや、将来にわたって岩場が愛されていくことの大切さなどを表現したかったという。

オリンピック競技化で人工壁コンペばかりに焦点が当たる現在、こうしたメッセージを持てる10代クライマーは貴重な存在となるにちがいない。